

1 教育目標・努力点・グランドデザイン

学習指導要領

ナゴヤ子ども応援大綱

名古屋市教育振興基本計画

学びの方針



実現したい市民の声

自由な市民として互いに認め合い、共に社会を創造する

目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける

重視したい学びの姿

- ・自分に合ったペースや方法で学ぶ
- ・多様な人と学び合う
- ・夢中で探究する

どの学校園でも大人が大切にしたいこと

子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する

- ・子どもの自分なりのチャレンジを大事にする
- ・子ども一人一人の思いや願いを尊重する
- ・子どもと対話する

明豊中学校 令和6年度 教育目標

〈校訓〉「心明るく 知性豊かに」

〈目指したい生徒像〉

- ① 自ら進んで努力を重ね、ともに学ぶ喜びを感じる生徒
- ② 自らを見つめ、ともに高め合う心をもって行動できる生徒
- ③ 強い心とたくましい体をつくる生徒

明豊中学校 令和6年度 努力点

～つながる力で咲かせよう 笑顔の花～

つながる力で咲かせよう 笑顔の花

自分自身を大切にするとともに、他の人を大切にすること

教科

○対話的な学びと個に応じた学び
 分からなさに寄り添い合える学習と、安心してそれぞれが自分に合ったペースや方法で学ぶ仲間を尊重した学習

総合的な学習の時間

○人権探究学習 ○キャリア学習
 ☆「命の尊さ」 ☆「生きるすばらしさ」
 ☆「いじめ防止」 ☆「人権問題」
 ☆「自分らしい生き方」

特別の教科 道徳

○人間としての生き方についての考えを深める学習
 ☆「自由と責任」 ☆「希望と勇気」
 ☆「思いやり、感謝」 ☆「生命の尊さ」
 ☆「相互理解、寛容」
 ☆「公正、公平、社会正義」等

○傾聴と対話の姿勢
 ○全ての生徒のための居場所作り
 ☆傾聴と対話で生徒に寄り添い、将来を見通した「つながり」ある指導
 ☆多様な学びの場
 ☆フラワールーム

生徒指導

○対話中心で自ら創り上げる行事
 ○安心して学び合える温かい集団作り
 ☆明豊タイム（短時間グループアプローチ）
 ☆一人一役を与え、仲間と「つながり」を味わわせる指導

人間関係

基盤となるつながり

☆保護者会
 ☆学校開放
 ☆ホームページ
 ☆学年便り

○教育相談
 ○つぶやきノート
 ○心のアンケート
 ☆相談しやすい関係

○生徒会行事
 ○学区ボランティア
 ○保護司講演会

保護者
 サポーター

教職員
 伴走者

地域
 サポーター

○思いやり清掃

○…生徒の活動
 ☆…教職員の取り組み

2 本校学校教育の努力点とその推進計画

(1) 主題

～ つながる力で咲かせよう 笑顔の花 ～

(2) 主題について

本校では、「つながり」と「笑顔」をキーワードにして、学校・地域・保護者の3者がつながることや、それぞれが子どもたちとつながること、そして、子ども同士のつながりを大切にしてきた。そこで、教育活動全般にわたって、話し合いや認め合いなどの“合い”の活動を繰り返し継続的に取り組むことによって、人権意識の高揚を図り、子どもたちが安心して過ごすことができるように努めてきた。その結果、「学校は安心して過ごせる」と感じる子どもたちは増えつつある。その一方で、様々なことに不安を感じ、悩みを抱え、うまく対処できず、自己肯定感が低かったり、自己有用感をもてなかつたりする子どもたちも多くいる。

また、ナゴヤ学びのコンパスでは、目指したい子どもの姿を「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」とし、個別最適な学びの実現に向け、子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりするゆるやかな協働性を大切にするとしている。

そこで、「自分自身を大切にするとともに、他の人を大切にすること」という人権意識の向上を図ってきた本校では、分かれなさに寄り添い合える仲間づくりを目指して、仲間と一緒に考えながら取り組む「対話」的な学びを推進しつつ、安心してそれぞれが自分に合ったペースや方法で学ぶ「個に応じた学び」ができる仲間を尊重した『深いつながり』を大切に学習環境をつくるのが、生徒の笑顔につながり、夢の実現のために自律して学習に取り組むことにつながると考えた。

また、キャリア学習を充実させ、望ましい職業観や勤労観を身に付けるとともに、さまざまな大人と『つながる』ことで多様な考えに触れ、自分のよさを認識し、自分らしい生き方を見付けたり、人とのかかわり方について学んだりすることで、それぞれの自己肯定感が高まり、自己有用感をもつことができると考えた。これにより、それぞれが自他を大切にす姿勢をより身に付けることができ、学校に笑顔の花を咲かせることができると考えた。

(3) 令和6年度努力点推進の具体的な取り組み

① 基盤となるつながりの取り組み

ア 教職員と子ども

教職員が子どもたちの心の変化を感じるため、毎日行う「つぶやきノート」、月に1回行う記名式の「心のアンケート」を基に随時相談活動を行い、積極的に『つながる』ようにする。更に、年に3回の教育相談週間を年間行事に位置付けて相談活動を行っていく。

また、子どもたちに守られているという安心感を感じさせるため、子どもたちと相談しやすい関係作りができるよう、子どもたち一人一人を大切に声掛けや生徒指導における「傾聴と対話」を行っていく。

イ 保護者・地域と子ども

思いやり清掃など地域と連携した行事を継続し、たくさんの方が子どもたちと『つながる』ことで、子どもたちが守られてるという安心感を感じられるようにしていく。

② 教育活動におけるつながりの取り組み

ア 学び

【授業づくり（教科）】

対話的な学びと個に応じた学びのある授業づくりを各教科にて実践する。これらの充実に向け、教師間で授業を参観し、教師間で『つながり』、学び合う授業研究週間を計画・実施し、一人一回の授業研究と授業デザインを基にした検討会を行い、まとめを発行する。また、学力テストの分析を各教科で行った上で、教科部会や現職教育にて学力の向上に『つながる』効果的な授業づくりを検討していく。

【総合的な学習の時間】

人権問題、命の尊さを様々な講師の方との『つながり』から学ぶ活動と、人権問題、命の尊さなどの探究学習を行う。また、キャリア学習を通して、望ましい職業観や勤労観を身に付けるとともに、さまざまな大人と『つながる』ことで多様な考えに触れ、自分らしい生き方を見付けたり、人とのかかわり方について学んだりする活動を行う。

【特別の教科 道徳】

教材との対話、仲間との対話を通して、「自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」等の道徳的諸価値と自分を『つなげ』、人間としての生き方についての考えを深める学習を行う。

イ 人間関係

【学級経営・学年経営】

安心して学び合える温かい集団作りに向け、明豊タイム（エンカウンター含むさまざまな対話活動）を定期的に年間14回実施し、ソーシャルスキルを高め、仲間と『つながる』土台作りを行う。また、一人一役の活動を行うことで、学級と密接に『つながり』をもたせ、仲間から必要とされている実感を感じさせるようにしていく。

【行事等】

行事などで学級・学年の目標や計画を対話により決め、仲間と『つながり』合いながら課題解決を行う活動を重視して行う。

ウ 生徒指導（生徒サポート）

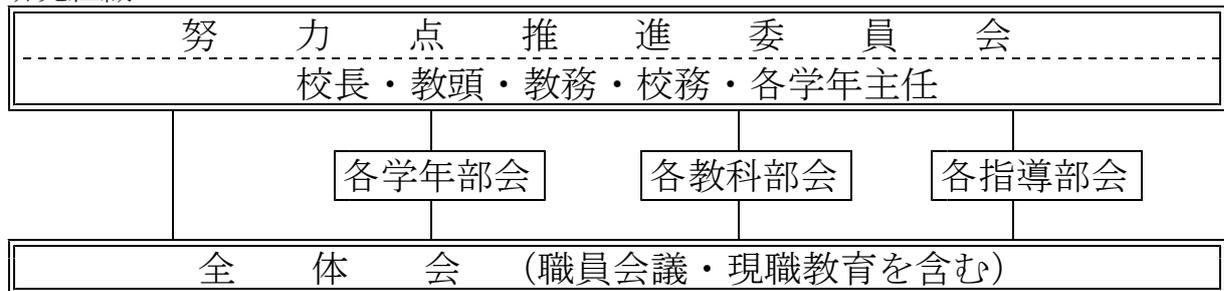
【傾聴と対話】

生徒の思いに寄り添い、伴走者として、将来を見通した『つながり』ある指導を心掛ける。

【居場所作り】

学校に行きたくても行けない生徒のために、教室以外の居場所（フラワーーム）を設置し、全ての生徒と学校が『つながり』をもつようにし、多様な学びの場を提供する。

(4) 研究組織



(5) 研究の方法

① 各学年部会

- ア 子どもたちに安心感を与える関係づくり。
- イ 「傾聴と対話」を基調とした、保護者・地域との関係づくり。
- ウ 明豊タイム（エンカウンター含む対話活動）を通じて、仲間に受け入れられた実感をもたせ、自己肯定感を高め、自己有用感がもつことができる指導。
- エ 対話をしながら創りあげる活動を通して、人の気持ちをに引き合わせる指導。
- オ 「傾聴と対話」、迷惑行為に対する毅然とした指導。
- カ 一人一役の学級活動を通じて、仲間との「つながり」を味わわせる指導。

② 各教科部会

- ア 対話的な学びを通して、子ども同士のつながりをもたせるとともに、個に応じた学びの充実によって主体的に「学び合える」ようにする。
- イ 学力テストの分析から学力向上につながる授業検討を行い、生徒がより「分かった」「できた」「気付いた」「解けた」を感じることができる授業を実践する。
- ウ 対話的な学びを通して、互いを認め、共に生きようとする態度や人権感覚を養うようにする。

③ 各指導部会

- ア 温かな人間関係を築くための基本である「傾聴と対話」に心掛け、生徒指導・教育相談の機能の充実を図り、よりよい人間関係づくりに取り組む。
- イ 生徒自身のよりよい生き方探しを支援し、自分らしい生き方を考えるきっかけづくりとなる体験を中心としたキャリア教育に取り組む。
- ウ 各種行事や生徒会、委員会活動、学級活動は、生徒が活躍し互いを認め合うことができる重要な場だと捉え、活性化と充実を目指す。
- エ 共通のルールの下で生活できるようになるため、規範意識をもち、正しく善悪の判断をする力を身に付けることができるようにしていく。

(6) 研究の計画

- 4月
 - ・学年目標の具体化
 - ・教科ごとの研究テーマと実践の方法の決定（教科部会）
 - ・キャリア教育についての学び①
- 5月～8月
 - ・生徒の実態や問題点の整理（学力テスト分析・授業検討）
 - ・キャリア教育についての学び②
- 9月
 - ・具体的な実践と意見交換（授業研究週間）
- 9月
 - ・対話的な学びと個に応じた学びについて理解を深める活動（授業研修会）
- 11月
 - ・授業改善
- 2月～3月
 - ・実践成果の整理
 - ・努力点のまとめと反省および新年度の計画